

野田建築会会報

NAA NEWSLETTER

VOL.46

UNGA
PRIDE
NODA ARCHITECTURAL ASSOCIATION
The Alumni Association of Science
of Tokyo University



撮影：宮原夢画

2021年 国際建築展 UAE 館のキュレーターとして金獅子賞を受賞された寺本 健一氏

2022 SPRING

NODA ARCHITECTURAL ASSOCIATION



撮影：宮原夢画

寺本 健一

建築家 / Office of Teramoto 代表

1974 年生まれ。2000 年東京理科大学大学院（小嶋一浩研究室）修了。2000 年 - 2002 年ロッテルダムの Neutelings Riedijk Architects、2002 年 - 2012 年東京のシーラカンスアンドアソシエイツを経て、2012 年よりドバイの ibda design パートナー。2018 年にドバイと東京に拠点をおく waiwai を共同設立。2021 年に千葉県勝浦市に拠点を移し Office of Teramoto を設立。同年ヴェネチアビエンナーレ国際建築展 UAE 館のキュレーターとして金獅子賞を受賞。

【主な作品・展覧会】

- 2021 年 Hayy Jameel (ジェッダ・サウジアラビア)
- 2021 年 Wetland (ヴェネツィアビエンナーレ UAE 館)
- 2018 年 Jaddaf Art Park (ドバイ・アラブ首長国連邦)
- 2018 年 Jameel Art Centre (ドバイ・アラブ首長国連邦)
- 2018 年 Beach Villa Jumeirah (ドバイ・アラブ首長国連邦)
- 2016 年 Al Warqa' a Mosque (ドバイ・アラブ首長国連邦)
- 2015 年 Hai d3 (ドバイ・アラブ首長国連邦)

建築家になりたい。海外でも仕事ができるようになりたい。理科大に入学する以前から、そういう漠然とした憧れは持っていました。でも運河に程近い埼玉県郊外の新興住宅地に生まれ育った私の原風景は、田園を宅地造成した画一的な街並み。建築作品なども身近には無かったし、いわゆる“建築家”はドラマや雑誌を通して知るだけの遠い存在でした。英語に関しても全く自信がなく、“海外”は文字通り海の向こうの遠い遠い場所。そんな私が理科大を卒業する頃には、“海外でも仕事のできる建築家”になることを目指し始めます。在学中に、私でもヤレルかも、と勘違いをしたのです。94 年度の入学だから、もう四半世紀以上前のことになります。断片的な記憶しかありませんが、在学中にどういう経緯で、この大いなる勘違いをするに至ったのか思い出してみます。

入学したら直ぐに建築設計ができると思っていたのに設計演習は翌年からでした。しょうがないので、講義以外の時間は図書館の閉架書庫に籠って建築関係の書籍を片っ端から読み漁っていました。講義で印象に残っているのは小嶋一浩先生による空間デザイン演習の「いい建築・悪い建築」です。小嶋先生は“いい建築”のスライドを大量に見せながら、誰にでもわかる簡単な言葉でその魅力を説明します。有名でも権威主義的だったり不便だったりする建築は“悪い建築”、イキイキと使われている建築が“いい建築”と教わりました。翌年やっと設計演習がはじまります。最初の演習は難波和彦先生の指導でした。エスキスの時間だけでは物足りず、難波先生の事務所でアルバイトをさせてもらい、国立国会図書館関西館コンペの模型製作のお手伝いをしました。毎晩のように行われる、構造家の佐々木陸郎さんと難波先生の打ち合わせに同席し、実践の中で真剣勝負をする建築家の姿を見せてもらいました。次の演習は新居千秋先生の指導で住宅設計の課題。教科書通りの寸法の浴室を描いても、「そんなショボい風呂でカミさんと二人では入れない面白くない」と設計がエンジニアリングだけではないことを教わりました。

その後の設計演習の指導にいらっしゃる先生方も大変豪華なメンバーでした。宇宙服みたいなファッションで登場する妹島和世先生、イッセイミヤケの黄色いバンドカラーシャツを丁寧に着こなす青木淳先生、短パンTシャツ（しかもサンダル履きだったような？）の塚本由晴先生。それから藤本壮介先生のような、年齢もそう離れていない、デビューしたての建築家の講義も刺激的でした。図書館で眺めていた建築雑誌のなかにいる雲の上の存在だった建築家が、次から次へと目の前に現れます。講評会では先生方の異なる意見が衝突して、なかなかどれが最優秀作品か決まりません。先生方のかかなり自由なスタイルと共に、多様性のある社会の縮図をみているようで、そもそも設計の解答は一つではないという答えを知ります。建築家だったら見た目も何でもあり（多分）だし、独自の構想を持てば良いらしい。そうであれば私にもやれそうだ、という壮大な勘違いをするようになりました。”建築家“という遠かった存在がグッと身近に感じられるようになったからです。

修士課程は意匠の小嶋研究室に所属しました。同期の佐貫大輔、小谷研一と取り組んだ国際学生設計コンペが最終選考まで残り、プレゼンテーションのために小嶋先生とローマに行った時の事。テルミネ駅で、先生のポケットに手を入れてスリを働こうとした子供を捕まえ、関西弁で本気で怒鳴ったことがありました。ご本人にとっては何て事のない日常的なりアクションだったと思います。でも私にとっては、あ、これでいいんだな、国際化に必要なのは英語だけではない、と腑に落ちた貴重な瞬間でした。修士課程の修了後にはオランダのロッテルダムにある設計事務所での修行することになっていたのですが、もうその頃には海外に対する距離も縮まり、柏駅前留学で習得した付け焼刃の英会話力だけで渡欧してしまうのです。

理科大で学ぶ間に、“建築家”の存在を身近に感じる事ができ、“海外”が遠いと思わなくなりました。建築家であればどこでもやれそうだ。いや、そんな簡単な話でもなかったの、単に大いなる勘違いをしただけだったのですが、その勘違いがなければ今の建築家としての私は存在していないと思います。

作品名：Wetland

第17回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 2021 のアラブ首長国連邦 (UAE) 館のキュレーションと展示デザインを行った。キュレーターは寺本健一とワイル・アル・アワー。湾岸諸国で盛んな海水淡水化事業に伴う産業廃棄物のブライン（濃縮塩水）を再利用した環境に優しい革新的なセメントを用いた建築プロトタイプを展示した。共同研究を通して提示したこのプロトタイプは、MgO（酸化マグネシウム）ベースのセメントでできたモジュールを約2,500個組み合わせで構成されている。MgOセメントの新しい調合方法及びモジュール、空間形状は、ニューヨーク大学アブダビ校のアンバー・ラボ（AMBER Lab）、アメリカン大学シャルジャ校、東京大学の佐藤淳研究室および小淵祐介研究室との協働により開発。高度なデジタルエンジニアリングを用いた、「フューチャー・ヴァナキュラー」（ヴァナキュラー建築＝その土地の気候や風土に合った土着的な建築）というコンセプトに基づいた建築プロトタイプの構想である。UAEの「塩原（現地ではSabkhaと呼ばれる）」に着想を得た代替セメントを使った展示が「手仕事と先進技術を組み合わせ、消費と生産の関係をグローバルとローカルの両面で考えさせた」と審査員の高い評価を受け、国別参加部門の金獅子賞（最高賞）を受賞した。



Images courtesy of National Pavilion UAE



Images courtesy of National Pavilion UAE

NEWS & EVENTS RESEARCH ACADEMICS 東京理科大学 ABOUT US TUS LIFE ADMISSIONS & AID

2021.10.29 Fri UP

本学卒業生が第17回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展で金獅子賞を受賞



イタリアで開催中の第17回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展で、建築家 寺本健一さんがキュレーターとして関わったアラブ首長国連邦 (UAE) 館の展示が、国別参加部門の金獅子賞を受賞しました。

寺本さんは1999年に本学 理工学研究科 建築学専攻 修士課程を修了し建築家として活躍、現在は「office of teramoto」の代表を務めています。第17回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展で、寺本さんは、自身が共同設立者である、ドバイと東京を拠点とする建築設計事務所 waiwai のパートナーである、ワイル・アル・アール氏と共同キュレーターとして企画・構成を行ったアラブ首長国連邦 (UAE) 館の展示が、国別参加部門の金獅子賞（最高賞）を受賞しました。

■ PREMI DELLA 17. MOSTRA INTERNAZIONALE DI ARCHITETTURA (第17回国際建築展 ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展)
<https://www.labiennale.org/it/news/premi-della-17-mostra-internazionale-di-architettura>

■ 掲載誌

The Japan Times (Aug 31, 2021):

<https://www.japantimes.co.jp/news/2021/08/31/national/kenichi-teramoto-venice-biennale/>

日本経済新聞(2021年8月31日):

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOE30C9J0Q1A830C2000000/>

日本経済新聞(2021年10月28日):

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC142ULU1A918C2000000/>

(電子版購読には会員登録が必要です)

金獅子賞受賞を伝える HP (理科大ニュースから)

建築の「環境」を ライフサイクルから考える



とうき けんすけ
唐木 研介

1981年 広島県生まれ岡山県育ち
2005年 小嶋一浩研究室 卒業
2005年 東京大学工学部社会基盤工学科
景観研究室 研究生
2006年 株式会社ワークヴィジョンズ
2007年～2019年 有限会社小泉アトリエ
2020年 グッドサイトアーキテクト
一級建築士事務所設立
<https://goodsightarchitects.com/>
2021年 東京工業大学大学院博士後期課程修了
博士(工学)
村田涼研究室・安田幸一研究室

みなさんはじめまして。唐木と申します。私は大学卒業後にアトリエ系設計事務所に勤めた後、2020年に独立し、今は主に東京、時々岡山を拠点に活動しています。私が設計をする上で興味を持っているテーマの一つに「環境」があります。世界的な気候危機やエネルギー問題などを背景に、「環境」は社会的なトピックといえますが、建築分野における「環境建築」や「環境工学」といった言葉からは、エネルギー消費量や断熱性能といったような細かな数値が出てくる小難しそうな印象を受ける方も多いのではないのでしょうか。

私が「環境」に興味を持ったきっかけの一つは、前職である小泉アトリエで「LCCM住宅デモンストレーション棟」(写真1)の設計を経験したことです。LCCMというのはライフサイクルカーボンマイナスの略称で、建物の建設から廃棄までのライフサイクルを通じたCO2排出量をマイナスにすることを目指しています。このコンセプトの面白いところは建物を使う時のエネルギーだけでなく、建設に使われる素材の製造エネルギーや、建物の解体、資材のリサイクルなども含めて考えなければならないところです。こうした視点でみると、例えば、昔の木造住宅と里山の関係は、近隣の山で資材となる木材を育て、住宅の更新に合わせて活用し、廃材は焼いて炭として活用するといったように、そのライフサイクルが一つの循環としてデザインされており、それが里山の風景を形づくっていました。



写真1：LCCM住宅デモンストレーション棟 写真：小泉アトリエ

また、写真2は宮崎県都城市に計画した「シラス洞窟の家」という個人住宅です。これは小嶋研究室の同期である石沢英之さんと三原悠子さんと共同で設計したものです。計画地がある南九州の地盤は火山噴出物であるシラスが堆積してできています。シラスは農耕に適さず長らく厄介者として扱われてきました。ここでは曲面の壁や天井を、そのシラスを用いた左官仕上

げとしています。シラスの左官材料は計画地の近隣から掘削、天日干して製造されたものなので素材の製造エネルギーが小さく、さらにその場所の文化に深く根差した素材といえます。

このように「環境」に関わる問題をライフサイクルを通じた長い時間軸で眺めると、エネルギーだけでなく、その土地の文化や風景へと話が広がっていくことがあります。入口が入りにくそうに見えるかもしれませんが、建築を考える一つの視点として「環境」をライフサイクルから考えてみるのはいかがでしょうか。面白い発見があるかもしれません。



写真2：シラス洞窟の家 写真：石沢英之

ありがとう！卒業設計！



おかまつ としひろ
岡松 利彦

1965年 福岡県飯塚市生まれ
1989年 理工学部建築学科卒業(堀川研究室)
1991年 理工学研究科建築学専攻修士課程修了
(堀川研究室)
修士終了後、齋藤裕建築研究所 入所
1999年 独立、岡松利彦建築設計事務所
現在に至る
<http://okamatsu5.jp/>

こんにちは、岡松利彦建築設計事務所の岡松です。

学生の皆さんはちょうど今、徹夜続きで卒業設計に取り組んでいる頃、ただこれを目にする頃は解放感でいっぱいな感じかなと想像しながら書いています。

卒業設計には色々な思い出があります。当時、独立したばかりの初見研究室の先輩の所へよくアルバイトに行っていて、そこに卒業設計のエスキースを受けに行ったのが運の尽き。「コンペが終わったら事務所自由に卒制で使っていいから」という言葉につられ卒業設計そっちのけでコンペの手伝いをするはめに。ただラッキーなことにコンペ提出後は、その事務所にアルバイトに来ていた後輩たちに卒業設計を手伝ってもらえ、1カ月以上も下宿に帰ることなく取り組む事が出来ました。久々に下宿に帰ると連絡が取れず心配していた母から安否確認の電報が届いていました……。今となつては笑い話。携帯電話がなかった古き良き時代の思い出ですね。

皆さんの力を借りたおかげで、私の卒業設計は、第1回の「千葉県建築三会学生賞」を受賞することができました。その賞は「千葉県建築学生賞」と名前を変え今年で34回目を数えます。20回目の開催時に出席者OB/OGの会(なの花会)を発足させ、「なの花会」として毎年展示や審査に参加しています。そこでは理科大の同期や先輩が指導教官として制作を指導した作品も見ることができ、大変興味深いですね。またその会のメンバーで、

一緒に設計やプロポーザルに参加し、見学会を開いたりして刺激を受けています。

大学卒業から30年以上たった今、卒業設計のおかげで、先輩や後輩、他校の学生と繋がることができ、自営で飯が食べていけているのだ、と感謝しています。あとここだけの話、「千葉県建築三会学生賞 受賞」という経歴に騙されたパートナーをゲットすることもできましたよ（笑）

これらの出会いをこれからも大切にどう発展させていくかは、今後の自分次第。

「一期一会」を信条に、人のご縁を大切に、日々感謝しながら精進していきます。

ありがとう！卒業設計！（謝）



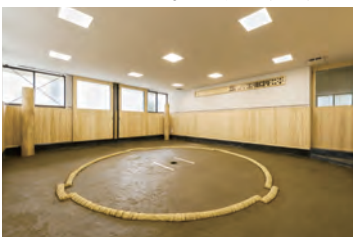
卒業設計図面



ほっべるランドにいたかみなみ



旧東関部屋 外観



旧東関部屋 稽古場



はなわこども園

た。ロサンゼルス自然歴史博物館の常設展のデザイン、設計。昨年オープンを迎えたアカデミー映画博物館でレンゾ・ピアノ氏と一緒に仕事をさせていただいたこともありました。アメリカで建築士は弁護士と医師に並んで敬意を払われている職業の一つ。おかげで設計の自由度ははるかに高いです。しかし施工の職人の技術がそれに追いついていません。細かい部分になればなるほど、雑な施工が目立ちます。ある程度のやり直しは施工中に可能ですが、多くの場合は妥協せざるを得ません。何度、日本の職人がいたらいいのと思ったことかわかりません。国外に出て初めて気付いた日本の職人の技術の素晴らしさ。施工だけではなく色々な局面で日本の良さ、美しさを実感します。外国の方が日本人以上に日本の文化を崇拝しているのも納得します。

一方で日本と違い、アメリカは家族との時間を大事にしている国。自分のペースで仕事が可能です。子供の学校のスケジュールに合わせて自由に仕事ができます。州によっても違い、オレゴン州はカリフォルニア州よりも家族重視。COVID-19以降は自宅勤務に変わり、より一層家族との時間を持つようになりました。競争意識もカリフォルニア程高くなく、とてもチームワークを大事にし、リラックスして仕事をしている人たちが大半を占めます。日本のインターン時代に夜中まで働かされていた時よりはるかに効率よく仕事できています。これは国外に出て気付いた日本の悪い部分。

渡米して日本を客観視できたことで日本に対する新たな価値観を得られたこと。そんな経験をさせてくれた家族や友人に感謝しています。

もし海外に少しでも興味があるのであれば、学生たちにはぜひ海外に飛び出して自分の価値観を磨いていただきたいです。



Natural History Museum の常設展のデザイン

新たな価値観



こばやしただけし
小林 剛

2004年 初見研究室 学部卒
2007年 南カリフォルニア建築大学 大学院卒
2007年～ 建築事務所勤務（ロサンゼルス）
2016年 アメリカ建築士免許取得
2018年～ 建築事務所（ポートランド）

卒業設計そっちのけで英語の勉強を始めて、あっという間に渡米して16年が過ぎました。色々な事務所で様々なタイプの設計（博物館、学校、高層住宅、劇場など）に携わってきまし



Playa Vista Elementary School のデザイン

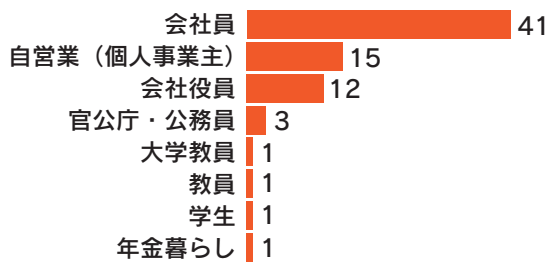
第3回ノダ・アーキサロン開催にあたって実施したアンケート結果と開催テーマについて

第3回ノダ・アーキサロン開催にあたり、理工学部建築学科の卒業生の皆様には「働き方について」、在学生の皆様には「将来希望する働き方について」のアンケートを実施させていただき、73名(女性15名、男性58名)の卒業生、17名(女性7名、男性10名)の在学生、合計90名の皆様からアンケートの回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。卒業生のアンケートの回答から「働きやすさ」の感覚には女性と男性とで大きく開きがあり、学生の将来の不安に「家事や出産育児と仕事の両立」などの仕事との両立に関する内容があげられていました。

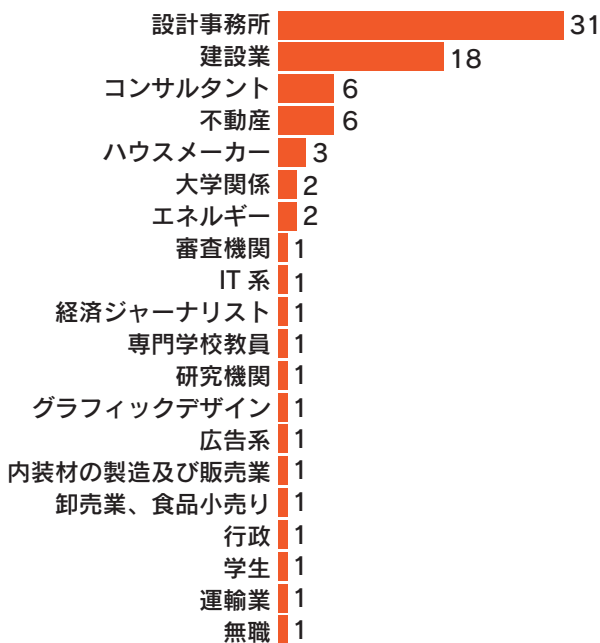
第3回ノダ・アーキサロンでは『私たちの働き方～仕事と家事育児の両立どうしてる？先輩たちに聞こう！』をテーマに理工学部と工学部の建築学科の卒業生、在校生から登壇者をお招きし、働き方についての意見交換と若い人たちの将来へのヒントとなるサロン交流を目指します。2022年3月5日開催予定で会報発送の頃には実施済みの予定です。本会報でアンケートの結果を掲載させていただき、第3回ノダ・アーキサロンの報告は次回会報に掲載の予定です。

社会人版

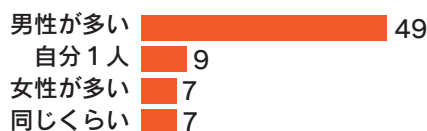
1) 働き方の状況を教えてください



2) 仕事のジャンルを教えてください



3) 就労環境の男女比を教えてください



4) 女性、男性だから、より苦労した、不自由を感じた、大変だった、という経験はありますか？

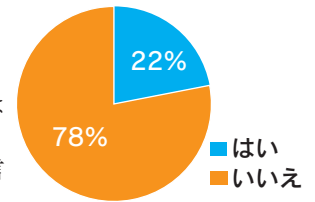
『はい』と答えた方の回答

女性

- ・体力、チャンス。
- ・採用面接で「基本的に女性とはならない」と言われた。
- ・女性だから「～をしろ」と言われた。
- ・お母さんだから「～しなくてはいけない」との思い込みから、できないと自己嫌悪に陥ることもあった。
- ・女性活用の風潮になり、女性というだけで役職に就けられる。
- ・女子学生の増加には女性教員が多い方が良いと感じる。
- ・体力的に男性と完全に平等な働き方ができないこと。
- ・現場管理業務でトイレが仮設だったり、場所が限られたり、頻繁にトイレにいけなかったりすることが少なからず負担。
- ・夫に2カ月の育児取得を打診すると「出世が遅れるから取得したくない」と言われ、1年半産休育休取得予定の私は、「出世する気がない社員の位置付けなのか？」と感じた。

男性

- ・女性管理職の増加による男性管理職の競争の激化。
- ・女性として気遣うところ、平等にするところの塩梅。



5) その苦労や不自由を解決するために工夫していること、乗り越えた経験があれば教えてください。

全て女性

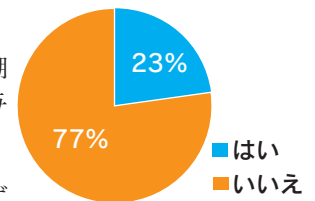
- ・気にしないこと(^^)
- ・笑って過ごす。
- ・とにかくコミュニケーションをとること。
- ・男の人には女性ならではの大変さ、不満は言葉で伝える。
- ・理解を得るために会話をする。不自由なままでいるのは損。
- ・性別や年代にとらわれず活発な議論、特に雑談の重要性。
- ・信頼を得るためきっちり図面等を揃え現場でハキハキ話す。
- ・施主側にも女性が増え、その様なことは少なくなった。

6) 女性だから、男性だから得をした、良かったと感じた経験はありますか？

『はい』と答えた方の回答

女性

- ・最近では社会的な女性登用の潮流の中で、むしろチャンスを与えられる事が多くなってきた。
- ・覚えてもらいやすい。(^^)
- ・あまり服装などに気を遣わずに過ごしてこれた。
- ・重たいものもったり、重労働を手伝ってもらえる。
- ・女性だというだけで目立つので意見を聞いてもらいやすい。
- ・家庭云々以外では、実力次第で女性も活躍できる社会になってきている。
- ・子育てをしながら仕事をすることは男性よりも世の理解を得やすいが、子育ては女性の仕事前提なのがジレンマ。
- ・「女性活躍重視」の流れは、特に官公庁で強く、女性にとっては昇格承認のアドバンテージとなっている。



男性

- ・ゼネコンの場合いろいろな意味で男性の方がチャンスは多かった。

7) 後輩や現役学生に向けてアドバイスや伝えたいメッセージがあればご自由にお書きください。

- ・ いろいろ興味ある事を楽しんでください！大学生はお金も時間も自由もバランスよくあり、人生最適な時代です！
- ・ 良いパートナーを得て大切に。
- ・ できるだけ建築実務に関係ない思想・思索にふけるようにしてもらいたいと思います。
- ・ 建築設計や不動産業界は男女の差はほぼ無いと言っていい。人生は一度きりだということに早く気づいてください。
- ・ グローバルな感覚がとても大切。これからは国や建築の垣根を超えた幅広い領域へ関心を向けることが必要で、企業も経営資源を様々な地域、分野に投資しようとしています。
- ・ いろいろな世界を見た上で進路を決めてほしいです。先輩がどんな業界で仕事をしているのか、建築という土俵が将来どうなるのかを考えて学んで下さい。そして、遊ぶこともお忘れなく。
- ・ 多くの分野に目を向ける。特に芸術と経済。
- ・ 知識を応用して、実行力を身につけることが肝要。
- ・ 自分がやりたいことが見つかり邁進できれば幸運ですが、見つからない場合でも与えられた課題をこなす過程で見つかることもあります。アンテナをはって頑張ってください。
- ・ 何かと気配りを求められる昨今、仕事の専門性を高めて！
- ・ あらゆる経験は必ずいつか役に立つ。
- ・ 建築を通して楽しめることが肝心だと感じております。
- ・ 将来の選択肢が「設計」「ゼネコン」「デベロッパー」に絞られがちですが、建築と関わりのある職種・業種はそれ以外にも沢山あります。建築は好きだけど設計に向いていないとの理由で建築と関わりない業種を目指す前に、建築と関わりのある職種・業種をチェックして将来の選択肢を増やしてください。
- ・ 学生時代は一番自由な時間があります。視野を狭める事なく、色々な事に興味を持ちチャレンジを！
- ・ 積極的に色々なことにチャレンジしてみてください。将来、役に立ちますよ。
- ・ 現場は一通り経験するのに5年から10年かかりますが、最初は辛抱して経験することを奨めます。
- ・ 建築を専攻していたからといって、将来の職業は建築に限らず、いろんな社会に飛び込んで行ってほしい。
- ・ 建築界もだんだんと女性が増え、だいたいの現場では紅一点になり、パワハラやセクハラも少なくないが必ず味方になってくれる人がいるもので、なんとかなります。
- ・ 建築をやるなら中途半端でなく、世の中の建築環境を変えるくらいの意気込みで立向え！
- ・ 学生のうちから社会に出ることが重要。
- ・ 資格は早く取らないと段々取るのが難しくなります。
- ・ 学生時代に自分の適性や好みを理解するのはなかなか難しいと思います。あまり深く考え過ぎず色々飛び込んでみることをお勧めします。
- ・ 理科大卒業生と仕事上でのつながりが多くなりました。卒業生が頑張っている証です。自信をもって社会に出て下さい。
- ・ いっぱい学んで遊んで吸収してください！
- ・ 自分の学歴やキャリアに拘らず、何にでも真剣に挑戦してみたいです。ひとりひとりが誰にも侵すことのできないかけがえのない存在だということをしっかり心に抱いて、自分の人生を大切に生きてください。
- ・ 世界に目を向けると色々な状況が待っています。あまり細かいことに悩まず、想いを貫くよう頑張ってください。
- ・ 難しい時代に突入しましたが困難は新たなニーズ発掘のチャンス、失敗を恐れず、信じたことへ果敢に挑戦して欲しいです。

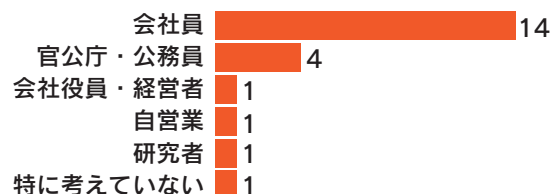
- ・ 建築の設計はとてもおもしろく、古くから社会に必要とされた職能です。一方、報酬や労働環境が厳しかったり、社会的責任が大きかったりとマイナス要因が多いのも確かです。それを改善するべく、地方で出来ることから取り組んでいるOBもいます。国土交通省H29年データによると1級建築士は全国で14万人いますが、その内20～30代は1.7万人弱(12%)しかいません。建築士資格がないと出来ない仕事も多く、近い将来は資格者不足が社会問題になると思われます。別の見方をすると仕事が増え、報酬が増え、労働環境も改善される可能性が高くなります。是非一緒に設計をやり、世の中を変えていきましょう！
- ・ 基本的なマナーに意識的になることが大事だと思います。その他はそれからでも遅くない。
- ・ 好きな事を仕事に出来ると仕事が楽しいです。
- ・ 理系の学生、特に女性の方、公務員を進路の選択肢に一考願います。
- ・ 大学4年間は大変短く、あっという間に卒業を迎えます、将来の自分の姿をしっかりと思い描き、その実現に向け、何に取組んだらいいのか良く考え、毎日を大切に生きてください！
- ・ 建築で何ができるのか？CO2排出抑制、環境配慮型建築、新築は木造が必須とならざるを得ないのにまだまだですね。製造過程も入れるとS造もRC造もCO2をどれだけ排出している事か……。地方の仕事に従事しているとつくづく考えさせられ……。次の世代に期待します。
- ・ 男女だけでなく、さまざまな差異があることも理解すべきです。広い視野、俯瞰的に物事を捉えることが重要と思います。
- ・ 建築業界は、働き方もジェンダー意識も相当遅れている。男性の意識が変わらない限り状況は変わらないと意識すべき。

8) 今後、ノダ・アーキサロンを開催する際に、具体的に話を聞いてみたい卒業生がいれば教えて下さい。

- ・ 寺本健一・中畑昌之・斎藤清一・とりやま あきこ
- ・ 構造設計者として活躍されている方
- ・ 野田の建築学科の先生方
- ・ 官公庁の方
- ・ 都市計画系、特に再開発事業に携わっている方
- ・ 企業家志向の方

学生版

1) 将来、希望する働き方のスタイルを教えてください



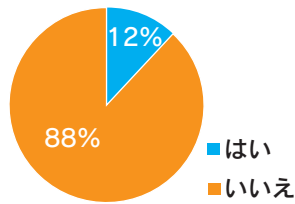
2) 希望する業種を教えてください



3) 社会に出るにあたって、男性ならではの不安はありますか？

『はい』と答えたかたの回答
全て女性

- ・出産、育児と仕事の両立
- ・子育てと仕事の両立



4) 不安を解消するためにも、先輩に聞いてみたいことがあれば、自由に記載して下さい。

- ・お金を使う時間はあるの？

5) 今後、ノダ・アーキサロンを開催する際に、具体的に話を聞いてみたい卒業生がいれば教えて下さい。

- ・寺本健一
- ・中畑昌之
- ・女性の国家公務員

改めてアンケートに回答いただいた皆様に感謝申し上げます。アンケートの実施や結果報告などにおいて至らぬことも多々あったと思いますが、野田建築会はさまざまな活動を通じて建築学科の卒業生、在校生の交流の促進を目指しております。今後ご協力を宜しくお願い致します。

利根運河シアターナイト 2021 報告

2021年11月13日～20日開催

利根運河シアターナイト 2021 共同代表 高安耕太郎

今回で9回目の開催となる利根運河シアターナイト 2021は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、一度の延期を経て、11月の開催となった。今年は例年とは異なり、8日間の長期開催と会場の拡張を行ったが、天候にも恵まれ、無事終了することができた。また、会期中のトラブル（迷子）には、迅速に対応し対処した。新型コロナウイルス対策については、流山市、東京理科大学の指示に従い適切に行った。多くの方々のご理解とご協力を賜り、8日間という長期開催を終演まで行うことができた。

・灯り

地域の子供たちを対象に行った、ものづくりワークショップで制作した提灯の展示を運河水辺公園で行った。このワークショップは、東京理科大学のキャンパス内で、13日と14日の両日開催し、合計300名以上の参加を賜り大盛況となった。なお、東京理科大学の指示に従い、会場の定員の半数以下での開催とした。



展示棚は、グリッドの大きさの違う3種類の棚を用意し、その大きさの違いによって提灯の見え方が変わる展示を行った。16時半以降は、電池式の蝋燭を模したLEDライトを使い、点灯した。

・floors

運河水辺公園の北岸にある石段に設置した家具。普段の水辺での過ごし方とは異なる、様々な居座りを提案し、許容するような机のような椅子のような家具を設置した。昼間は、多くの方に利用していただき、それぞれの使い方を見ることができた。16時半以降は、電池式のLEDライトを用いてライトアップし、普段とは違う風景を作り出した。



・nest

運河水辺公園の南岸に設置した巨大な竹のドーム。近隣住民の竹林から刈り取った竹を用いて組んだドームは、静かな居座りを想像して制作したが、想定外にも子供たちが元気に使う光景が見られた。日の入り以降は、発電機とLEDライトを用いてライトアップし、運河に竹のドームが浮かび上がった。



・写真展「日常を切り取る」

利根運河のほとりに建つ割烹新川屋さんの庭をお借りして行った写真展。写真は、地域住民の方々に提供いただき、日常をテーマに、風景を切り取るフレームとともに展示した。日の入り以降は、電池式のLEDライトを使い、暗闇に写真が浮かび上がるような展示を行った。



・西深井散策の森



西深井散策の森にて行った布とハンモックを用いた展示。普段なかなか使われない敷地で、木漏れ日を感じられる幻想的な空間を演出した。提灯をアプローチとして展示した。17時以降は敷地内への立ち入りを禁止し、前面の道路から鑑賞していただいた。

・飲食店マップ

利根運河地域にある飲食店と協力したマップ。各飲食店に対し、オリジナルの切り絵カードを作成し配布した。



2021 年度 卒業設計、修士設計紹介

■バーチャル展示室

卒業設計、修士設計の提出作品を 3D 撮影し
バーチャル展示室で公開しています。

卒業設計バーチャル展示室 (44 作品)
<https://onl.la/A4gzUfJ>



修士設計バーチャル展示室 (30 作品)
<https://onl.la/Z7hVRJW>



バーチャル展示のイメージ

■講評会動画配信

卒業設計講評会動画
(選抜された 13 作品の議論)
ゲスト：山崎健太郎、海法圭、南俊允、
佐竹雄太、津川恵理
<https://onl.la/zKwWnT7>



修士設計講評会動画 (YouTube)
ゲスト：遠藤政樹、加藤道夫、高橋堅、
栃沢麻利、山田紗子、鈴木啓
<https://onl.la/mJxXJ5H>

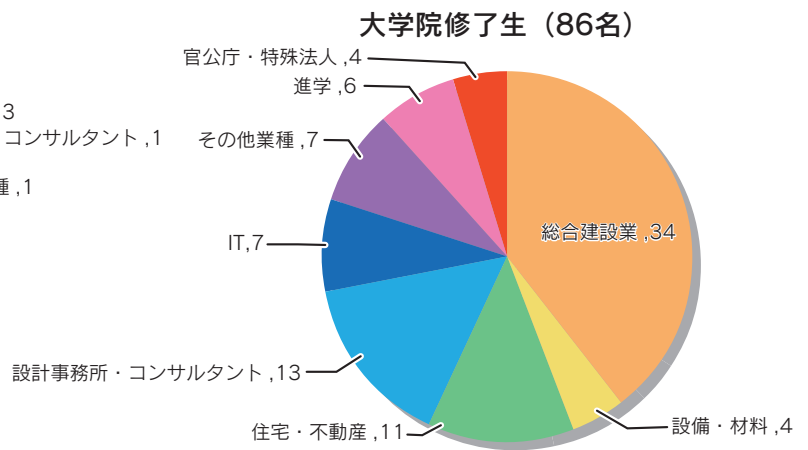
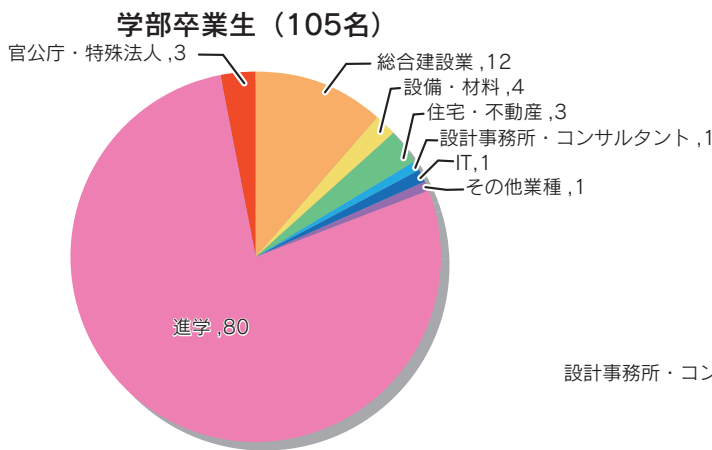


講評会風景

出典：Nishida Lab 東京理科大学 建築学科
西田研究室 YouTube チャンネル
<https://onl.la/e3njvcG>



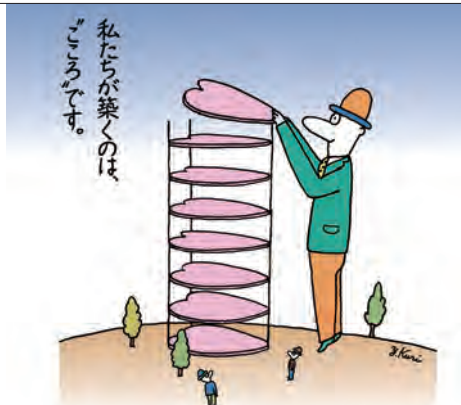
2020 年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各就職先リスト



高める、つくる、そして、支える。



熊谷組



K&E

ケーアンドイー株式会社

2021年メルマガ「第3回ヤマザキ賞」のお知らせ

山崎晃弘 1976 上原研・野田建築会顧問

NAA メールマガジンのなか「最もいきいきとした感性あふれる文章」に対して贈る、2021年度「第3回ヤマザキ賞」優秀賞が以下に決定しました。

副賞として、Amazon ギフトカード 5000 円を贈りました。

選考理由：単なる日常の日記ではなく、短い文章のなかにはクルーズでの光景も浮かび、とりわけ祖父への深い愛情がほんのりと伝わることを評価しました。

2021年11月12日投稿分

タイトル：隅田川の橋巡り

筆者：鈴木仁那（すずきにな） 永野研究室学部4年

私は建物を見るのはもちろん好きですが、橋を見るのも大好きで、初めて勝鬃橋や瀬戸大橋を渡った時など感激しました。

隅田川の上水バスをご存じでしょうか。浅草から船で13の橋をくぐり抜けながら浜離宮やお台場までを観光するものです。今の時期は気温もちょうどよく、クルーズはおすすめです。

先日、このクルーズに祖父と乗船して橋を見に行きました。

実は祖父は橋梁設計の技術者で、いろいろな橋造りに携わった公務員でした。私の橋好きは祖父の遺伝なのかもしれません。

水上バスの中で祖父は橋の構造などについてたくさん話してくれ、時間がある学生のうちにもっと話を聞いてみたいと改めて感じました。また近いうちに、今度は神田川と日本橋を周遊

するコースに行く約束をしました。

春先に桜を見ながら橋を見学というのも素敵そうです。その時を励みにしつつ、まずは迫ってきた卒論提出・発表まで駆け抜けたいと思います。

<原文から段落をわかりやすく編集しています。写真はイメージ>

【受賞のコメント】

この度はヤマザキ賞をいただき、ありがとうございます。とても光栄です。

数か月ぶりにまた祖父との神田川橋巡りの計画を立てながら、桜咲く春が待ち遠しく思います。それまでにもう少しコロナが落ちついていることを願っています。

みなさまもお体ご自愛下さい。



TOKYO CRUISE のサイトより掲載

上原先生お墓参り

菱崎嘉昭（1987年卒 上原研）

2021年12月5日、小春日和の穏やかな午後の陽ざしの中、上原先生の墓参りに行って参りました。今年は、7人のOBが集まりました。ご逝去されてから、はや5年です。こうして、年代の異なるメンバーが、語られる機会を与えてくださる、上原先生をあらためて尊敬し、みんなで参りいたしました。

墓参のあと、墓地管理事務所にある休憩所、お茶を飲みながら歓談するのがいつものパターンになっています。山岸さんが、おやつに買ってきてくださった「都饅頭」がおいしく、饅頭の話が、翌日のメール交換に発展し、類似の饅頭の出来上がる工程動画のリンク先が送られてきました。

たわいのない会話を、楽しく、年齢の差も感じることなくできる、この雰囲気こそ、上原研究室の環境だったのかもしれない

せん。先生も、静かに笑っておられたと思います。参加されていないOBの方にも、この日の雰囲気少しでも感じていただければ幸いです。

別日にお参りされた、また、遠くからお参りいただいたOBの方々、御礼申し上げます。

参加者（卒業年）

五十嵐洋也（1978）、八田直人（1980）、山岸順二（1981）、日高靖晃（1984）、好土崎倫子（1985）、白岩和浩（1985）、菱崎嘉昭（1987）



清められたお墓



お墓参りのOB・OGの方々

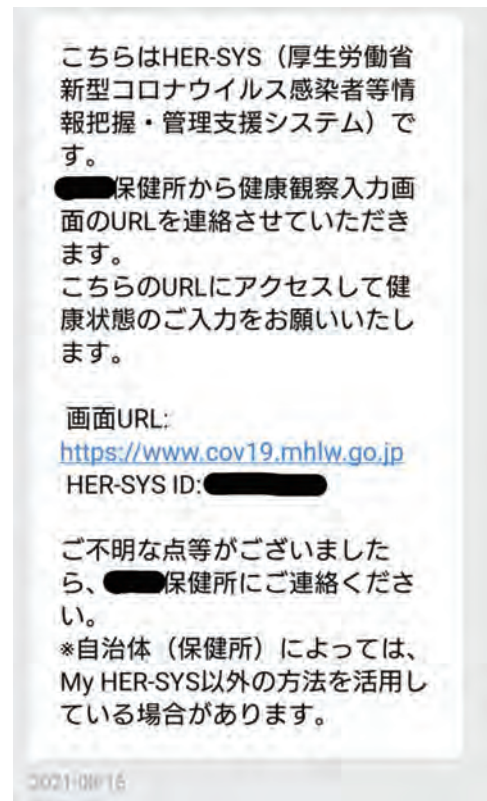
新型コロナウイルスに感染してしまった話

児玉雅美 (2001 年卒 井上研)

昨夏、流行に乗って(?) 新型コロナウイルスに感染してしまいました。時期的にデルタ株だったと思われませんが、幸い軽症・自宅療養で済みました。その体験を踏まえて、どんな備えをしておけばよいかなど体験記を記したいと思います。

- ・感染の原因：おそらく家庭内感染。ただし最初に感染したのもどこでもらったかまったく見当がつかない。
- ・症状：37℃台後半の発熱が10日間程度、咳、倦怠感（全身が筋肉痛のように痛い、しっかり睡眠を取っているのにひたすら眠い）。毎朝保健所と会社に症状を報告（保健所にはHER-SYS（※）、会社にはメールにて）。
- ・後遺症：頭痛・倦怠感（1週間程度）、咳（1ヶ月程度）
- ・備えておいてよかったこと：解熱剤・咳止めといった市販薬を買ってあったこと。アイスノンを複数冷凍してあったこと。粉末のポカリスエットを常備してあったこと（保存性がよい）。生協をやっているので食料の買い出しをしなくて済んだこと。ただし食料に関しては買い出しに行けなければ行政が手当てしてくれるのでそれほど心配はいらないと思います。
- ・備えが足りなかったこと：かかりつけ医がいなかったこと。コロナ陽性になると病院も含めどこにも行けなくなるので、医師に相談したくてもする相手がいなくて困りました。かかりつけ医がいると、電話で相談ができたりするので必要性を強く感じました。

私は復職までに3週間を要したのですが、復職後しばらくは通勤だけで疲れてしまい、午後になると頭痛に悩まされて定時まで勤めるだけで精一杯という状態でした。外出できないこともそうですが、コロナも一因で体力がかなり減退してしまったように思います。そういった意味ではやはり単なる風邪やインフルエンザとは違うウイルスなので、くれぐれも罹患されないようご注意ください。



HER-SYS の案内メールの文面

※ HER-SYS…「ハースィス」厚生労働省新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム。陽性判定されるとスマホにSMSでURLとIDが送られてきて、そのサイトにログインして体調を報告する。スマホがない人は電話での体調確認。

築理会新年会 (web) に招待されました！

菱崎嘉昭 (1987 年卒 上原研)



築理会新年会 (web) の風景

去る2022年1月22日土曜日の外はおだやかなに寒風がそよぐ午後、築理会新年会 (Web) に、野田建築会の粟飯原、山崎、出塚、鳥山、菱崎の5人をご招待いただきました。築理会のみなさまの学び舎である神楽坂の今と昔の映像を見ながら、今と当時の違い、思い出のお話と、各人が、Webとは思えない、なごやかに、そしてスムーズに語り合い、あっという間に時間を過ごしました。野田建築会も野田キャンパスの変遷を、遠くにいらっしゃる理工のOBのみなさんに紹介する機会を設けること決意した一日となりました。

最後は、築理会と野田建築会は、これから、さらなる交流を深め、お互いの会の活性と発展を期待する誓い、閉会いたしました。同じ理科大の建築を学んだ同窓として、工学部・理工学部部の垣根をなくし、大きなネットワークを構築し、社会に貢献できる組織となればという思いを共有できたように感じます。そして、その願いを現実化しようと決意したひとときだったと確信しています。みなさまに、この雰囲気が、少しでもお伝えできれば幸いです。

※築理会=東京理科大学工学部建築学科校友会(築理会HPから)



第13回 野田建築会 定期総会開催のお知らせ

定期総会（詳細は追って配信メールまたはHPやFBでご確認ください。）

日時：令和4年5月28日（土） 14：00～

場所：未定

コロナ感染状況によりですが、リモート（Zoom）併用にて開催します。
参加者へのリモート案内は、追ってお知らせします。

【編集後記】

2022年3月5日に開催する第3回ノダ・アーキサロンは『私たちの働き方～仕事と家事育児の両立どうしてる？先輩たちに聞こう！』をテーマに開催します。開催にあたり働き方について卒業生と在校生にアンケートを実施し、結果を集計してみるとやはり仕事と出産、子育てにおける意識改革をしていかないといけないなと私は感じました。男性も含め育休など制度は整備されてきていますが、意識を変えることはとても大変で、いろいろ意識しているつもりでも十分ではないようです。サロンでどのような話がでるのでしょうか？とても楽しみです。（会報部会：大野 芳俊）

P11のOB・OG活動特集で、兄玉さんが2021年夏頃に新型コロナウイルスのデルタ株に感染した貴重な体験談を寄稿してくれました。原稿を受領した時には、「いや～大変だったんだな～」と、他人事で拝読しましたが、なんと、この会報を編集中の2022年2月に我が家の長男が発熱し、PCR検査の結果を待つ間に、私、夫と次々に体調を崩し、結果として、家族全員がオミクロン株に感染する事態となりました。私の場合は、兄玉さんの時のように「ハース」からの細かい症状の確認というやりとりはなく、昨年に比べて、行政側に余裕がなくなっていることを実感しました。いろいろ大変だったことの体験談はまたの機会として、ここでは、とりやま的に、コロナ感染した場合に知っておいた方が良さそうだと思う情報を共有します。

- ① 東京都では1週間分の食料品・パルスオキシメーターを無料で配送してくれます。買い物に出かけることもできないので、とても助かります。「自宅療養サポートセンター」のサイトから申し込みができます。
 - ② 濃厚接触者となった方は、東京都のホームページから、無料の抗原検査キットを申し込むことができます（この会報が発行される頃には終わっているサービスかもしれません・・・）。PCR検査より早く結果が出るので、家庭内に感染者が出た際のとりあえずの確認にとっても助かります。
 - ③ 自己判定だけではなく、必ず医療機関で診断を受け保健所に陽性者として登録してもらいましょう。自宅療養期間が終わってからとなりますが、「自宅療養証明書」を発行してもらうことで、入院と同等の保険料を受けることができたりするようです（加入している保険によります）。
- ※ 2022年2月現在、東京都にて、オミクロン株に感染、自宅療養となった場合の情報ですので、その都度、お住いの地域の行政ホームページなどから最新情報を確認してください。（会報部会：とりやまあきこ）



東京都から届いた食料品

会費納入のお願い

NAAでは会則により、2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）の普通会員年会費として3,000円を徴収しています。これらは会報の発行、ノダ・アーキサロンの開催、見学会等の研修、NAA賞の授与、NAAサイトの維持その他NAAの活動に有効に活用されています。こうしたNAAの運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。（お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください）

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。
（注）年度会費の二重払いを避けるため、ご不明の場合は右記HPでお問合せください。

野田建築会会報 VOL.46 2022 SPRING

2022年3月1日

編集：会報部会（とりやま あきこ / 大野 芳俊）

発行：東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

銀行振込 ゆうちょ銀行 店番号 019 当座 27644

（氏名の横に『学部』の卒業年を西暦で記入してください）

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>

Facebook ページ

<https://www.facebook.com/nodakenchiku>

